

組織人を幸せにする管理会計

商学部 教授 吉田栄介 よしだ えいすけ

慶應義塾大学商学部に勤めて今年で20年目になります。弟子たちも育つたので、後は、研究人生の集大成として私なりの世界観をいくつかの本に書き残しておこうと考え、日々、執筆生活に明け暮れています。

私の専門分野は管理会計です。経営会計と呼ぶ方がしっくりときます。組織設計・運営の仕組みが組織行動や業績に及ぼす影響を探究する学問です。

学問の性質上、組織設計、経営管理、業務効率化などのノウハウに精通します。そのため大企業からアドバイスを求められる機会も多く、若い研究者たちも、管理会計はお金儲けの学問なのかなと一度は迷うことがあります。

でも、そのように卑下する必要はありません。何らかの目的に向けて人が集まり組織化し最高の成果を上げる方法を探るためには、現代においては企業組織が最適なため、研究対象の中心に位置づけられているに過ぎません。

大企業の組織設計・運営から得られた知見が、中小規模の組織に応用されたり、病院、学校、地方公共団体、ソーシャル・セクターに応用されたりと、実際に社会貢献の機会も多いのです。さらに百年先を見据えれば、組織間マネジメントのノウハウは国家間の紛争解決にも貢献できるでしょうし、企業が利潤追求に邁進した20世紀に対し、貧困や食糧・医療などの社会的課題の解決には、国家ではなくソーシャル・セクターや企業の貢献が期待されます。

組織で働く個人への貢献もあります。私自身の研究を振り返っても、原価企画能力研究では、設計担当者の燃え尽き症候群に焦点を当て、短期的成果ではなく持続可能な仕事の在り方を追究してきました。テンション・マネジメントとしての管理会計研究でも、組織目標や業務プロセスが、不要な過度のストレスを与えない方法の法則を探っています。

「職場環境が整い、仕事ぶりが公正に評価される、そんな組織設計・運営に貢献する管理会計であってほしい」。そうした姿を提示し実践することが、私自身の仕事人生を豊かにしてくれた管理会計への恩返しでもあります。



談話室

教員によるエッセイコーナー